

## 日本語教科書での終助詞「よね」の扱いに関する一考察

西郷英樹

### 要旨

終助詞「ね」及び「よ」は日本語教育の文法項目として広く認知されているが、その複合体である「よね」の日本語教科書での扱いは不十分で、改善の余地が大いにあると言える。本稿ではまず日本語教科書の中での「よね」の扱いに関する調査結果を報告し、後半で「よね」の意味機能が説明されない現状、言い換えれば、「よね」が文法項目として扱われない現状がどのような理由に起因しているのか思索した。

【キーワード】 日本語教育 日本語教科書 終助詞 「よね」 「ね」 「よ」

### 1. はじめに

日本語教育に携わっていると、日常での日本語使用に敏感になってしまうのは一種の職業病と言えるだろう。筆者も自分が発した言葉も含め、耳に入ってくる日本語で、「あ、この表現はよく使われているのに、日本語教育で教えられていないな。」「あ、この言い回しも学習者が知っていたら便利だな。」などしばしば独り言ならぬ、独り思いをしている一人である。その中でも筆者がかなり前から気になっていたものに文末に現れる「よね」がある。「よね」は性別、年代を問わず幅広く用いられているにも関わらず、日本語教育で文法項目として取り上げられてこなかった。「よね」は、その構成要素である「よ」や「ね」のように、なぜ日本語教育、より正確に言えば、日本語教科書での文法項目としての地位を確立できないのか。日本語教師としてのこの素朴な疑問が本稿を書く動機となった。

### 2. 日本語教科書の中の「よね」

本項では日本語教科書の中で「よね」がどのように扱われているかを調査することを目的とする。なお、調査は日本語教科書をレベル別（初級・中級・中上級以上）に

分け、実施した。

## 2.1 初級日本語教科書

表1は今回調査した初級日本語教科書とその調査結果をまとめたものである。

表1. 初級日本語教科書の中の「よね」

教科書名	使用回数	意味機能
『初級日本語』(全2巻)	0	×
『初級日本語げんき』(全2巻)	0	×
『新文化初級日本語』(全2巻)	0	×
『大地』(全2巻)	1	×
『みんなの日本語』(全3巻)	0	×
『A Course in Modern Japanese』(全2巻)	2	×
『J.Bridge for Beginners』(全2巻)	8	×
『Japanese for Busy People』(全3巻)	3	○
『Situational Functional Japanese』(全3巻)	8	△

表1から分かるように、今回調査した日本語教科書9書の内、「よね」が一度も使用されていないものは、4書(『初級日本語』『初級日本語げんき』『新文化初級日本語』『みんなの日本語』)あった。

次に、「よね」の意味機能に関する説明はないが、教科書の会話例の中に「よね」が複数回用いられているものに『大地』『A Course in Modern Japanese』『J. Bridge for Beginners』があった(それぞれの教科書の「よね」使用例は図1から図3を参照)。

ジョーダン	：ただいま。
岩崎	：お帰 <small>かえ</small> りなさい。どうしたんですか。
ジョーダン	：試合 <small>しあい</small> に負 <small>ま</small> けてしまったんです。
岩崎	：残念 <small>ざんねん</small> でしたね。だれでも試合 <small>しあい</small> に負 <small>ま</small> けるのは悔 <small>くや</small> しいです <u>よね</u> 。
ジョーダン	：僕 <small>ぼく</small> がコーチのサインを見るのを忘 <small>わす</small> れてしまったから……。
岩崎	：そんなにがっかりしないでください。今度 <small>こんど</small> 頑張 <small>がんば</small> ってください。
ジョーダン	：はい。ありがとうございます。

図1. 『大地』Vol.2 (71頁)

ルイン : あのう、これ、国のものなんですが。  
 おくさん : あら、どうもありがとうございます。  
           何なんでしょう。開あけてもいいですか。  
 ルイン : はい、どうぞ。先生せんせい、お酒さけ、お飲のみになりますよね。  
 先生 : うん、まあ。ほう、めずらしいものですね。

図 2. 『A Course in Modern Japanese』 Vol. 2 (165 頁)

山川 : ひーん。  
 姉 : 冗談よ。学校の先生せんせいって、結構けつこう大変たいへんなんだから。  
 山川 : じゃあ、どうして？  
 姉 : やっぱ子供こどもが好すきだったし、子供こどもの成長せいちょうを見るみるのは楽たのしいからかな。  
 山川 : 先生せんせいになってよおかったと思おもうのはどどんな時とき？  
 姉 : それはもちろん子供こどもたちが成せい長ちようして、卒そつ業ぎようしていく時ときよ。  
 山川 : そう言いえば、ささゆり姉ねえさん、毎まい年とし3月がつになると、泣なきながらうかえに帰かえってくるよね。  
 紳一郎 : そうなの？  
 姉 : 卒業そつぎよう式の時ときだよト

図 3. 『J-Bridge for Beginners』 Vol. 2 (65 頁)

また『J. Bridge for Beginners』では会話例だけではなく、文法の選択問題の中の2箇所箇所に「よね」が用いられている（図4参照）。

**4. FOCUS ON LANGUAGE (文法)**

① Choose the appropriate one.  
 选出正确答案。  
 알맞은 것을 고르세요.

1. A: 国際センターの大石先生おおいしせんせいを知しっていますか。  
 B: ええ。(あの・その)先生せんせいはすすごくややさしくて、親しん切せつですよね。

2. A: 「大黒庵おおいでくあん」にそばを食たべに行いきませんか。  
 B: いいですよねえ。(あそこ・そこ)ははおおいしくて、有ゆう名めいですし。

3. A: 私わたしのふるさとふるさとは四し国こくの松山まつやまです。  
 B: (あそこ・そこ)はどどんなところところですか。

4. A: 夏目漱石なつめそうせきの『坊ちゃんぼっちゃん』をよみましたか。  
 B: ええ。(あれ・それ)ははおおもしろいいですよね。

図 4. 『J. Bridge for Beginners』 Vol. 2 (212 頁)

同書は後述の『Situational Functional Japanese』と共に今回調査した初級教科書の中でも「よね」の使用回数が8回と最も多い。これは他の初級教科書での「よね」の使用回数が少ない中、自然な終助詞使用の提示をより意識しているように思える。

『J. Bridge for Beginners』と同様、「よね」の使用が多い『Situational Functional Japanese』(以下、SFJ)は会話の中の発話例「BASIC わかるよね。」を聞き手の能力の有無を尋ねる方略として再度取り上げている(図5参照)。

2) Asking if the listener can do it. ⇨L20CN S-3b

[N] おわかりになりますか。 **㊦** **㊧** *Do you understand ~?*  
 わかりますか。 **㊦**  
 わかる。 **㊧**

[N] お使いになったことありますか。 **㊦** **㊧** *Have you used ~ before?*  
 使ったことありますか。 **㊦**  
 使ったことある。 **㊧**

② BASIC、わかるよね。 **㊦**  
*You understand BASIC, don't you?*

③ このソフト、使ったことありますか。 **㊦**  
*Have you used this software before?*

図5. 『Situational Functional Japanese』 Vol.3 Drills (199-200頁)

このように「よね」の使用に焦点を当てた教科書は初級レベルでは同書だけであり、この点で、同書が「よね」の使い方に一歩踏み込んでいると評価できる。しかしながら、これは「(名詞)、わかるよね？」の使い方であり、「よね」自体の意味機能ではない。さらに学習者の立場に立てば、「よね」が聞き手から同意を求める働きを持つと教えられる「ね」に替わった「(名詞)、わかるね？」との違いも分からないだろう。

同書では「よね」が最終課(24課)の会話例に再出しており、同課の Conversation Notes 「How to support someone's view」の項で、「ね」及び「よね」が相手の考えに賛成を表明する発話例の一部として用いられている(図6参照)。

**S-3. How to support someone's view**

When you agree with what someone else has said, you can indicate your support with the following expressions:

そうですね。 <b>㊦</b>	<view>	です(よ)ね。 <b>㊦</b>	
		だ(よ)ね。 <b>㊧</b>	
そうだね。 <b>㊧</b>		(よ)ね。 <b>㊧</b>	
	(それは)いい考えだと	思います <b>㊦</b>	
そうね。 <b>㊧</b>	(私も)そう	思うよ。 <b>㊧</b>	
	(私も)賛成	思うわ。 <b>㊧</b>	
		です。 <b>㊦</b>	
		。 <b>㊧</b>	

① 鈴木田: 金沢はちょっと遠いなあ。  
 山下田: そうですね。 遠いですよね。

図6. 『Situational Functional Japanese』 Vol.3 Notes (228頁)

またこの練習も用意されており（図7参照）、相手の発話命題を繰り返し、それに「よね」を付加し賛成を表明するというドリル練習になっている。

A: 金沢はちょっと遠いんじゃない。↗

B: そう { ね。 ♯  
だね。 ♯ } ちょっと遠い { わよね。 ♯  
よね。 ♯ }

金沢はちょっと遠い

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 飛行機は高い <small>ひこうき たか</small></li> <li>3. 鎌倉は近すぎる</li> <li>5. 山下さんはまじめすぎる</li> <li>7. your choice</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 田中さんはしゃべりすぎる <small>たなか</small></li> <li>4. 北海道は遠すぎる <small>ほっかいどう</small></li> <li>6. あの先生はきびしい</li> </ol>
--	---

図7. 『Situational Functional Japanese』 Vol.3 Drills (178頁)

筆者が知る限り、この練習は初級日本語教科書で「よね」を用いた唯一の練習である。しかし、「よね」の意味機能についての説明はなく、賛成を表明する際に用いられる「ね」と「よね」との意味機能の違いについて言及されていない。「遠いね。」と「遠いよね。」の間には一体どのような違いがあるのか知りたいと思うのが学習者の気持ちではなかろうか。

『Japanese for Busy People』(以下、JFBP)では会話例中に「よね」が3箇所用いられている(使用例は図8を参照)。

While walking around town with Mr. Kato, Ms. Martin notices a solar panel installed on the roof of a house.

 マルタン: あの家いえのやねについているの、ソーラーパネルですよね。

 加藤: ああ、そうですね。最近さいきん、つけている家いえがふえてきました。

マルタン: コストパフォーマンスはどうなんでしょうか。

 加藤: かなりいいらしいですよ。ソーラーパネルのメーカーにつとめてい友人ゆうじんに聞いたんですが、天気てんきがいい日は十分じゅうぶんに発電はつでんアキスので 電力会社でんりきかいしゃから電力でんりきを買かわからくてまいいいそううで

図8. 『Japanese for Busy People III』(21-22頁)

同書は今回調査した日本語教科書の中で唯一「よね」の意味機能に言及しており、「よ

ね」が初出した課（第3巻第6課）の会話の注で「よね is an ending used in spoken Japanese to ask someone for confirmation about a statement one has made.」（102頁）と説明されている。しかしながら、同書第1巻での「ね」の説明では「The particle ね comes at the end of a sentence or phrase and, like “isn’ t it?” in English, seeks confirmation and agreement from the other person. It is spoken with rising intonation.」（50頁）とあり、確認する場合の「ね」「よね」の意味機能の違いが明確に示されておらず、提示された説明だけで学習者が「よね」の意味機能を理解することはかなり難しいだろう。

以上の調査結果から、今回調べた初級日本語教科書の約半数（9書中5書）で「よね」が用いられていることが分かった。また「よね」が用いられている教科書間でも使用回数が8回のものが2書、残り3書は3回以下と「よね」を積極的に取りいれているものとそうでないものとの差も比較的大きいことも分かった。

意味機能に関しては、JFBP以外「よね」の意味機能に触れているものは皆無で、そのJFBPの説明も「ね」との違いにおいて学習者が理解できるものとは言い難いことが分かった。最後に、「よね」の練習に関しては、SFJ以外の教科書では取り入れられておらず、SFJの問題も「よね」自体の運用能力を伸ばす練習・活動ではなかった。

## 2.2 中級日本語教科書

表2は調査した中級日本語教科書とその結果をまとめたものである。

表2. 中級日本語教科書の中の「よね」

教科書名	使用回数	意味機能
『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』	6	×
『会話のにはんご』	5	×
『新日本語の中級』	8	×
『上級へのとびら』	11	×
『なめらか日本語会話』	7	×
『ニューアプローチ中級日本語』	5	×
『文化中級日本語』（全2巻）	4	×
『わかって使える日本語』	0	×
『Intermediate Japanese』	6	×
『J.Bridge to Intermediate Japanese』	2 <sup>(1)</sup>	×

上の表から分かるように、今回調べた中級日本語教科書は『わかって使える日本語』

以外、全ての教科書に「よね」が用いられていた。初級日本語教科書と比較すると、到達目標が自然な日本語の習得に移行する傾向の強い中級レベルで「よね」を使用する教科書の割合が高くなるという調査結果は調査前からある程度予想できるものであった。「よね」が使用された箇所に関しては、初級日本語教科書と同様、大半が会話文であった（使用例は図9及び図10を参照）。

いづか . . . のの、てい。い。

モニカ：血液型で性格が分かるなんて、面白いよね。でも、当たるのかなあ？A型の人はずいぶん協調性がある。B型は楽天的でマイペース、O型はおおらかで負けず嫌い。AB型は個性的で二つの性格を持つ傾向があるって、書いてあるよ。本当かなあ。

はるか：さあ、私は全然信じてないけど、結構信じてる人、いるかも。血液型に関係したことって、日本では、すごく人気があるし。

モニカ：へえ、どんな？

はるか：例えば、血液型占とか。どの血液型とどの血液型の恋人はいいとか悪いとか、占うんだ。それに、「B型人間との付き合い方」なんて本や、血液型のランキングもあるらしいよ。

モニカ：へえ、ランキングって、何のランキング？

はるか：なんでも！例えば「もてる血液型は、男性の場合、1位がO型、2位がA型、3位がAB型で、4位がB型」なんだって。その他、将来お金持ちになれる血液型のランキングとか、風邪をひきやすい血液型なんてのもあるらしいよ。

モニカ：うっそ〜！それって、変だよね。血液型でそんなこと分らないよ。

はるか：うん、私もそう思う。人間には4種類の人しかいないなんて、ありえないよね。

モニカ：そうだね。この間、友達にモニカはO型でしょって言われちゃったんだ。

はるか：へえ、どうして？

モニカ：負けず嫌いだからって。ちょっとムツときた。

はるか：モニカは負けず嫌いってわけじゃないけど、がんばりやさんだし、それに、おおらかだよね。

モニカ：ええ〜、そうかなあ。でも、私、自分が何型か知りたくなってきた。

はるか：今血液型に関係したことはなくてまだジニアにたるとして、日本の血液型について

図9. 『上級へのとびら』(164頁)

■クラブの部室で、部員が話しています。

小山：松田先輩って人使いが荒いよね。いつも、荷物を持たされるんだ。

伊東：僕は、ユニフォームを洗わされるよ。

小山：きのうは試合が始まるまでさんざん待たされたね。

伊東：その間にいやというほど練習させられたよね。

図10. 『会話のにほんご』(62頁)

また中級教科書では、会話文の中だけではなく、練習問題（タスクシート-図 11 参照、組み合わせ問題-図 12 参照、文完成問題-図 13 参照、代入ドリル-図 14 参照、選択問題-図 15 参照）の中に広く用いられていることが分かった。

### <気づきシート>②



・発表のあとで、みんなでわいわい話しましょう。

自然な感じでよかったよ！ ことばが分からないとき、別のことばで言ったのも！

あはは、次は、もっとうまくやるよ。



・聞きながらしるしをつけて、あとで話しましょう。

◎ とてもよかった ○ まあまあよかった △ ちょっとアドバイス

発表を見るポイント	発表者	発表者	発表者	発表者
① 「声の大きさ」や「話す速さ」はよかった？ *はずかしいと声 <small>こえ</small> が小さ <small>ちひさ</small> かったり、速 <small>はや</small> くなったりする <u>よね</u>				
② 「視線」や「顔の表情」「体の動き」はよかった？ *普通、下を向いたまま会話 <small>かいわ</small> はしない <u>よね</u>				
③ 感情が入れられていた？				

図 11. 『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（9 頁）

**I** 右と左を結んで、一つの文にしなさい。

<p>1. 先<small>ま</small>に行<small>い</small>って待<small>まち</small>っててね、</p> <p>2. 親<small>おや</small>はいつでも思<small>おも</small>っているのよ、</p> <p>3. うれしくってしかたがないんだね、</p> <p>4. 10年<small>ねん</small>ぶりだったんだよ、</p> <p>5. 明日<small>あした</small>、結<small>けっ</small>婚<small>こん</small>式<small>しき</small>に呼<small>よ</small>ばれているんだ<u>よね</u>、</p>	<p>・ a. 会社<small>かいしや</small>の同僚<small>どうりやう</small>の。</p> <p>・ b. タクシー乗<small>の</small>り場<small>ば</small>で。</p> <p>・ c. 子供<small>こども</small>のことを。</p> <p>・ d. 初<small>はじ</small>めて飛<small>ひ</small>行<small>こう</small>機<small>き</small>に乗<small>の</small>るのが。</p> <p>・ e. その友<small>とも</small>だち<small>あ</small>に会<small>あ</small>ったのは。</p>
---	---

図 12. 『なめらか日本語会話』（83 頁）

**会話を考えよう**

会話の予測

\* C D 使用

- ① 会話の流れを確認しながら次の \_\_\_\_\_ にどんなことばが入るのか、考えてみましょう。
- ② CD を聞いて、便利だと思ったことばや気がついたことについて話しましょう。

(A: Bさんの近所に住む人 B: 留学生)

**会話の流れ**

A: あおう、ちょっと。この段ボールの山、出したのあなたですか。

1. 上手に謝る

B: はい。① \_\_\_\_\_

A: 今日は、何のごみを出す日か知っていますか。

B: はい、燃えるごみを出す日ですよね。

A: そうですよ。だから、段ボールを出す日じゃないんですよ。

B: えっ! そうですか。段ボールは燃えるごみじゃないんですか。どうもすみませんでした。段ボールは② \_\_\_\_\_

謝る 1

事情説明 1

A: いいえ。段ボールは資源ごみですよ。だから、資源ごみの日に出してくださいね。ごみはちゃんと分別して出してくれないと困るんですよねえ。

B: どうもすみません。この地域のごみの分別について

③ \_\_\_\_\_

謝る 2

事情説明 2

ご迷惑をおかけしました。あおう、ごみの分別について、  
\_\_\_\_\_

謝る 3

図 13. 『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(110 頁)

(A: 小川 B: 佐々木)

A: いやあ、だめだな。

B: どうしたんですか。

A: ①たばこをやめようと思っているのに、②周りの人が吸っていると、  
つい③吸ってしまうんだよ。

B: なかなか難しいですよね、それは。

1) ① 酒をやめる ② 誘われる ③ 飲む

2) ① 毎日運動する ② 休みになる ③ 一日中ごろごろする

図 14. 『新日本語の中級』(178 頁)

V 適当なものを選んでその記号を書き入れなさい。  
てきとう えら きごう か い

a. 年月が過ぎていくの**つ**て ねんげつ す    b. 徹夜した次の日は てつ や つぎ ひ    c. みんなの前で**ま**えで**こ**ろで**な**んて  
d. 夜に墓地を**よ**る**ら**を**と**が**ら**ぬ**の**は よる ばち とが ら    e. わたしたちの生活**ぜい**か**つ**て

1. 眠くてたまらないよ、\_\_\_\_\_。  
ねむ
2. こわい**よ**ね、\_\_\_\_\_。  
ねむ
3. あつという間**ま**だね、\_\_\_\_\_。  
ま
4. 昔と比べると便利**べん**りになったね、\_\_\_\_\_。  
ひかし くら べんり
5. かつこ悪い**わる**よ、\_\_\_\_\_。  
わる

図 15. 『なめらか日本語会話』(85 頁)

この「よね」の使用箇所の多様性は中級教科書の練習問題の多様性とも関連していると考えられるが、それに加え、前述した様に基礎文法力の獲得を主な目的とする初級レベルからより自然な日本語の学習・習得への移行としての位置づけが強い中級レベルの性格を反映しているとも言えるかもしれない。しかしながら、「よね」の使用回数に限って言えば、10 回を超える教科書は『上級へのとびら』のみで、5 回以下のものも 9 書中 4 書もあり、初級日本語での「よね」の使用回数からの飛躍的な伸びは見られなかった。

また意味機能を説明している中級教科書はなく、「よね」の習得を目的とした練習問題を取り入れたものもなかった。つまり「よね」は（現場の教師が「よね」の意味機能を教えなければ、）初級及び中級教科書でその意味機能が提示されないまま、会話文や練習問題で用いられていることになる。

### 2.3 中上級以上の教科書

中級までの教科書とは異なり、上級レベルになると、教科書の構成は読解問題を中心としたもの<sup>(2)</sup>、またはビジネス日本語、アカデミック・ジャパニーズ、介護の日本語など専門的な分野での日本語学習を目的とするものが多くなり、中級レベルまでのように日常生活で起こりえる会話例を提示し、その中の文法表現を練習する形式を取ったものは非常に数少ない。そのため、本調査では会話例を多く取り入れている上級教科書『日本語超級話者へのかけはし』に加え、中級と上級の間レベルであるいわゆる中上級レベルの教科書の中から会話例を積極的に取り入れている 3 書も調査対

象とし、「よね」の使用状況を調べた。表3はその調査結果である。

表3. 中上級日本語教科書の中の「よね」

教科書名	使用回数	意味機能
『日本語超級話者へのかけはし』	13	×
『日本語を話そう』	16	×
『ニューアプローチ中上級日本語』	20	×
『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』	12	×

上の表を見て分かるように、調査した教科書4書全てに10回以上の「よね」の使用が見られた。しかしながら、初級及び中級教科書と同様、「よね」の意味機能には全く触れられていないことが分かった。4書の調査結果は以下の通りである。

『日本語を話そう』では会話例の中で全ての「よね」の使用が見られた（使用例は図16参照）。

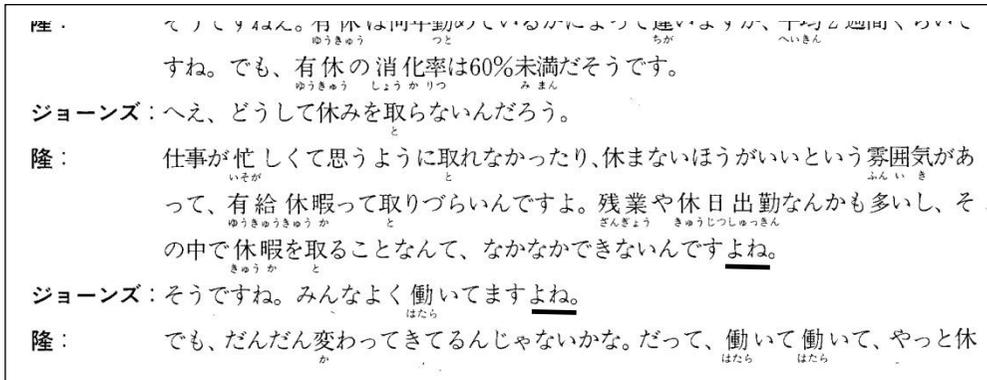


図16. 『日本語で遊ぼう』(72頁)

同書は文法表現についての説明が一切なく、各課の会話の内容を基にした「考える」「話す」「調べる」「見る」という練習・タスクで構成されている。中上級から上級にかけての教科書の典型的な構成は、各課の読み物とそれに関する複数の設問・タスクというものであるが、同書は読み物の代わりに会話（会話形式の読み物）が用いられていると考えてよいだろう。そのため、「よね」の使用も多くみられたが、「よね」の意味機能の説明、また「よね」を用いた練習問題はなかった。

『ニューアプローチ中上級日本語』では、「確認する」「後悔する」「応える」「苦情・文句を言う」という4種類の表現の一部として「よね」が用いられている。以下、順にその内容を述べていく。「確認する」(図17)の表現では、①(「指示の内容を確認する」)の1番の文ではノダ文と「ね」の組み合わせ(「～んですね」)が、そして2



が、「よね」に関する説明はない。また、前ページで見た「後悔する」の4番目の「よね」の使用が話者に委ねられていたが、これら2つの文の「よね」は括弧で括られておらず、「よね」の使用が求められている。では、どのような場合に「よね」が省略ができるのか、またはできないのか、この点に関しての説明もない。

(5) 応える

①前向きな態度

1. どうもありがとう。なんか/なんだか少し元気が出てきた(よ/わ)。
2. 落ち込んでいてもしょうがないですよよね。
3. 落ち込んでいる場合じゃないですよよね。(頑張らなくちゃ。)

図 19. 『ニューアプローチ中上級日本語』(203 頁)

「苦情・文句を言う」(図 20 参照)では、2番目の表現に「～と困るんですよ(ね)」とあり、「ね」が省略可能になっている。つまり、「よ」文の「～と困るんですよ。」を使うか「よね」文の「～と困るんですよよね。」を使うかは聞き手に委ねられているわけである。しかしながら、この場合、「よ」文と「よね」文で意味機能にどのような違いが生まれるのかに関する説明はなされていない。

(1) 苦情・文句を言う

1. ～んですけど/～んだけど。
2. ～と困るんですよ(ね)。
3. どうして・・・んですか/～の。

図 20. 『ニューアプローチ中上級日本語』(77 頁)

『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』では「よね」が12回用いられていたが、そのうちの7回が「勘違い」という単元の中のひとつの練習問題に集中している(次ページ図 21 参照)。この中で発話者Aの文末に「よね」が用いられているが、ここでの「よね」の意味機能は確認であろうと推察できる。しかしながら、ここでも「よね」に関する説明はなく、一般的に同意や確認を要求すると説明されている「ね」との違いにも触れられていない。

上級レベルの日本語教科書である『日本語超級話者へのかけはし』<sup>(3)</sup>では、「よね」が13回用いられており、その大半は会話例の中での使用である(使用例は図 22 を参照)。また同書では同感を表す相づち(「ほんとだよね」「そうだよね」)の一部として「よね」が用いられている(図 23 参照)。しかし、「よね」の意味機能の説明はなく、また「よね」の代わりに「ね」が用いられた表現「ほんとだね」「そうだね」との違いも分からない。

1. ( )の中に適当なことばを入れなさい。

(1) A：ブラジルの首都って、サンパウロだったよね。  
 B：えっ、( )じゃなかった？

(2) A：引力の法則を発見したのって、確か、エジソンだったよね。  
 B：えっ、( )じゃなかった？

(3) A：鎌倉時代って、794年からだったよね。  
 B：えっ、( )？

(4) A：水の化学式って、CO<sub>2</sub>でしたよね。  
 B：えっ、( )じゃなかったですか。

(5) A：アメリカの初代大統領って、リンカーンでしたよね。  
 B：えっ、( )じゃなかったですか。

(6) A：『未完成』って、確か、ベートーベンの作曲でしたよね。  
 B：えっ、( )じゃなかったですか。

(7) 「それでも地球は回る」って言った人って、確か、ソクラテスでしたよね。  
 B：えっ、( )？

図 21. 『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』 (35 頁)

親しい人に不満を語る例

I. A：ちょっと聞いてくれない？  
 B：なに、なに？

II. A：もうホント、嫌気がさしちゃった。  
 B：どうしたの？  
 A：ウチの上司ったら、わたしが提案したことを全部自分の考えみたくにしちゃって、なんでも一人で考えましたって顔するんだもん。ひどいよね。  
 B：ひどいねー。

III. A：この間だってさー、「働く女性のニーズに応えた知的メークの携帯化粧品セット」っていう商品企画出したんだけど、あとで見たら、ウチの部署からの提案じゃなくて、部長一人の名前になってるじゃない。  
 B：うわ、さいあくー。  
 A：別にわたしだけの提案にしてくれなくてもいいけど、少なくとも名前は入れてよねって言いたいよ。  
 B：本当だよね。



図 22. 『日本語超級話者へのかけはし』 (48 頁)

相づちのことば

話を聞き出す：どうしたの／何があったの／えっ、なになに

話を促す：それで／どうして

理解したことを示す：そうなんだ／ふーん

相手の気持ちを代弁する：うわーひどい／さいあく／さいてー

同感であることを示す：ほんとだよね／そうだよね

相手の文末を繰り返し同感であることを示す：ある、ある、ある／いる、いる

図 23. 『日本語超級話者へのかけはし』 (47 頁)

以上、中上級以上の教科書における「よね」の扱い方を考察したが、初級から中級、中級から中上級以上へと日本語のレベルが上がるに連れ、「よね」の使用頻度も高くなっている傾向が見られた。繰り返しになるが、より高い日本語レベルの教科書では自然な日本語の提示が必然的に多くなることを考えればこのような傾向は当然だと言えよう。また教科書作成者の観点から考えれば、使用できる文法表現や語彙などをコントロールしなくてはならないという意識が日本語のレベルが上がるにつれて低くなることも大きく作用していると言えるかもしれない。

また中上級以上の教科書では「よね」の使用頻度での変化だけではなく、「よね」がどのように扱われているかという質の面でも変化が見られた。つまり中級までの教科書に比べると、本調査で扱った中上級以上の教科書では「よね」がどのような意味機能を持つ発話と共起するかより明確に打ち出されている印象を受ける。言いかえれば、中級レベルまでは「よね」は読んで、または聞いて分かればよいという認識レベルの言語要素としてとらえられていた感が強かったが、中上級以上の教科書になると「よね」の産出を促すような提示の仕方になっているように感じる。しかしながら、初級・中級日本語教科書同様、その意味機能には言及しておらず、学習者が最も知りたい点であろう「よ」または「ね」との違いについて説明をしている教科書は皆無であった。

### 3. 「よね」の意味機能が説明されない理由

日本語のレベルを問わず教科書に使用されているにも関わらず、「よね」はなぜ日本語教育の中でその意味機能が説明されないのだろうか。言いかえれば、「よね」はなぜ「ね」や「よ」のように文法項目として扱われないのだろうか。少なくとも次の4つの理由が考えられるだろう。

- a. 「ね」及び「よ」よりも「よね」は使用頻度が低いと考えられている。
- b. 「よね」の意味機能は既に文法項目になっている「よ」の「ね」の意味機能の複合体である。
- c. 「よね」の意味機能がよく分かっていない。
- d. 教科書で「よね」を扱ってこなかった慣習が踏襲されている。

以下、それぞれの理由について考察していく。

### 3.1 使用頻度

「よね」は文法項目として扱われている「ね」及び「よ」よりも使用頻度が低いのだろうか。この点を調査するため、会話コーパスを分析した。使用したコーパスはウェブ上で一般公開されている「インタビュー形式による日本語会話データベース（編集責任者上村隆一氏。通称「上村コーパス）」である。なお、分析したデータは同コーパスの一部である国際基督教大学のインタビュー実験データ（母語話者 40 人分）である。表 4 はその実験データ中に現れた「ね」「よ」「よね」の使用回数である。

表 4. インタビュー中の「よね」「よ」「ね」の使用回数比較

名前	性別	「よね」			「よ」			「ね」		
		合計	被質問者	質問者	合計	被質問者	質問者	合計	被質問者	質問者
MA	F	12	2	10	2	0	2	48	9	39
TA	M	5	2	3	2	2	0	41	12	29
TA	F	16	7	9	0	0	0	47	20	27
WA	F	4	2	2	1	0	1	35	7	28
YI	F	7	2	5	0	0	0	16	5	11
YI	M	4	1	3	13	12	1	53	28	25
CI	F	11	8	3	5	3	2	40	21	19
KN	M	9	7	2	2	1	1	24	18	6
KO	F	4	3	1	13	13	0	22	15	7
MO	M	0	0	0	0	0	0	48	37	11
NO	F	1	1	0	0	0	0	20	17	3
TO1	M	8	6	2	1	1	0	25	18	7
TO2	M	12	6	6	25	23	2	68	35	33
IO	F	4	2	2	0	0	0	14	13	1
KI	F	6	2	4	0	0	0	49	25	24
NK	F	6	3	3	0	0	0	56	26	30
SK	M	10	7	3	6	6	0	52	42	10
MK	F	7	2	5	0	0	0	20	14	6
YS	F	4	2	2	1	1	0	35	23	12
KJ	F	1	0	1	0	0	0	23	19	4
CJ	F	6	3	3	0	0	0	18	14	4
TS1	F	12	7	5	0	0	0	18	9	9
TS2	F	3	1	2	0	0	0	33	10	23
TS	M	0	0	0	0	0	0	47	39	8
IT	F	1	0	1	1	1	0	31	23	8
MT	F	6	2	4	0	0	0	22	9	13
RT	M	8	5	3	0	0	0	6	2	4
KN	M	11	4	7	0	0	0	93	50	43
TN	F	2	2	0	0	0	0	31	25	6
MN	F	3	0	3	1	1	0	32	28	4
TN	F	6	2	4	7	7	0	44	24	20
YN	F	5	1	4	0	0	0	29	10	19
NF	M	10	1	9	1	0	1	69	31	38
MF	F	6	0	6	0	0	0	69	40	17
FH	F	3	1	2	0	0	0	57	26	19
YM	F	3	3	0	0	0	0	45	23	1
AM	F	9	3	6	0	0	0	24	34	25
RY	M	2	1	1	7	7	0	59	29	8
YY	F	10	3	7	0	0	0	44	24	20
MY	F	2	0	2	0	0	0	13	4	9
合計		239	104	135	88	78	10	1488	858	630

表4を見て分かるように、インタビュー中の被質問者及び質問者 80 人の発話中に現れた「よね」「よ」「ね」の使用回数の合計は、「よね」が 239 回、「よ」が 88 回、「ね」が 1488 回<sup>(4)</sup>であった。この結果から、「よね」の使用回数は、使用回数が非常に高かった「ね」には劣るものの、「よ」の約 2.7 倍も用いられていることが分かった。また、被質問者・質問者別に見ても、被質問者の「よね」の使用回数の合計が 104 回と、「よ」の使用回数 78 回を上回っている。また質問者の「よね」の使用回数の合計が 135 回、「よ」の使用回数の合計が 10 回と圧倒的に「よね」の使用回数が多いことが分かる。個人別の「よね」「よ」の使用回数を比較すると、被質問者では 8 割が「よね」を「よ」よりも多用しており、また質問者では全員が「よね」を「よ」よりも多く用いていることが分かった。今回の調査と同じような結果が野田(1993)にも見られる。野田はNHK「おはよう日本」の放送中に行われたインタビューへの返答にどのような文末が用いられたか調べ、調査結果として、文の総数 970 のうち、終助詞なしが 477 文 (49.2%)、「ね」が 319(32.9)、「よ」が 81(8.4)、「よね」が 93(9.6)であったと報告している。

Saigo(2011)が指摘しているように「ね」「よ」「よね」の使用頻度は会話の活動の型 (Levinson 1979) によって異なってくると考えるとすれば、今回調べられたインタビューとしての対話の型以外 (相談、説得、報告など) では 3 つの終助詞の使用頻度が今回の結果と異なることはある程度予想できる。<sup>(5)</sup> しかしながら、ここで重要なのは日本語文法項目として広く認知されている「よ」よりも「よね」の使用頻度が高い対話形式が少なくともひとつは存在しているという事実である。さらに、インタビューの活動の型は主として「質問」と「応答」という隣接ペア (やり取り) で構成されているが、この構成要素はインタビューだけではなく、様々な対話の型に幅広く見られるものである。このことから「よね」の使用が「よ」よりも多く見られたという今回の調査結果がインタビューだけに現れる特有の現象であることは非常に考えにくいと言えるかもしれない。この点については質的分析でさらなる調査が必要であろう。

### 3.2 「よ」と「ね」の複合形

「よね」は既に学習項目になっている「よ」と「ね」の結合体であるから、「よね」の意味機能も「よ」と「ね」が組み合わせさせたものである。それゆえに「よね」を改めて文法項目として取り上げる必要性はない。このような考えも「よね」がこれまで文法項目として取り上げられてこなかった背景にはあるのではないかと考える。この

考え方は一見論理的で説得力のあるものに思える。しかしながら、現行の日本語教科書で用いられている「よ」及び「ね」の説明で、「よね」の意味機能を類推するのは非常に無理があると言わざるを得ない。「ね」及び「よ」が導入される初級レベルでの日本語教科書では一般的に次の二通りの説明がされている。まず、話し手が知っている情報を聞き手が保持していない場合は「よ」、聞き手も保持している場合は「ね」を用いるという情報の有無という観点からの説明である。二つ目に、聞き手と話し手が保持している情報（意見や考えを含む）が一致している場合は「ね」、そうでない場合は「よ」を用いるという情報の一致・不一致という観点からの説明である。しかし、このように「ね」と「よ」が相反する意味機能を持っていることを示唆する説明では、その結合体である「よね」の意味機能を類推するのは非常に困難であると言わざるを得ない。

この結合体での説明が抱える矛盾を解く考え方の一つとして、「よ」が付加された命題が「ね」の範囲内に収まるという考え方がある。基本的に筆者もこの考えに賛成だ (Saigo 2011) が、現行の教科書でなされているような「よ」及び「ね」の説明だとこの考え方にも無理がある。一例として、最も幅広く使用されている初級日本語教科書『みんなの日本語』の「ね」と「よ」の説明を用いて考えてみる (次ページの図 24 及び 25 参照)。図 25 に見られる「よ」の意味機能 (“to emphasize information which is listener does not know, or show that you are giving your judgement or views assertively”) を図 24 での説明にある「ね」の意味機能 (“shows the speaker’s sympathy or the speaker’s expectation that the listener will agree”) の範囲に落とし込むと、「よね」は二通りの意味機能を持つ可能性が出てくる。初めに考えられる「よね」の説明として「当該の情報が聞き手の知らないことであることを強調することに同意を求める」というものである。この意味機能が正しければ、例えば話し手の誕生日を明らかに知らない聞き手に、「俺の誕生日は明日だよね。」という発話も正しいということになってしまうが、この文脈でのこの発話は明らかにおかしい。考えられる 2 つ目の説明として、「話し手が当該命題である自分の考えや判断を断定的に述べることに聞き手から同意を求める」という説明が考えられる。これと同じような説明は『A Dictionary of Basic Japanese Grammar』(牧野・筒井 1986) でもなされている (図 26 参照)。

6. **【よ】**

よ is placed at the end of a sentence. It is used to emphasize information which the listener does not know, or to show that you are giving your judgement or views assertively.

- ⑭ この電車は 甲子園へ 行きますか。  
…いいえ、行きません。次の普通ですよ。  
Does this train go to Koshien?  
…No, it doesn't. The next local train does.
- ⑮ 無理な ダイエットは 体に よくないですよ。  
Excessive dieting is bad for your health. (L. 19)

図 24. 『みんなの日本語 初級 I 翻訳・文法解説英語版』(41 頁)

7. **【ね】**

ね is attached to the end of a sentence to add feeling to what the speaker says. It shows the speaker's sympathy or the speaker's expectation that the listener will agree. In the latter usage, it is often used to confirm something.

- ⑰ 毎日 10時ごろまで 勉強します。I study till about ten every day.  
…大変ですね。 …That must be hard.
- ⑱ 山田さんの 電話番号は 871の 6813です。  
…871の 6813ですね。  
Mr. Yamada's telephone number is 871-6813.  
…871-6813, right?

図 25. 『みんなの日本語 初級 I 翻訳・文法解説英語版』(35 頁)

5. The *ne* of confirmation or agreement is used after another sentence-final particle *yo* of assertion. *Yo ne* means 'I assert that ~ but don't you agree? / am I right?'. This *ne* is pronounced with rising intonation

- (5) a. 英語が分かるよね。  
*Eigo ga wakaru yo ne.*  
(Lit. I assert that you understand English but am I right?  
(= You understand English, don't you?))
- b. あの先生はいい先生ですよね。  
*Ano sensei wa ii sensei desu yo ne.*  
(That teacher is a good teacher. Don't you think so?)

図 26. 『A Dictionary of Basic Japanese Grammar』(288 頁)

この参考書の説明は厳密に言えば、「よ」自体の意味機能は「ね」の範囲内に入っておらず<sup>(6)</sup>、「話し手が断定的に述べる自分の考えや判断内容に聞き手から同意を求める」という意味になる。この範囲問題の議論は他の機会に譲るとして、ここで問題となるのは「断定的」「断定する」などを用いた「よ」の説明である。話者が命題をわざわざ「断定する」ことを聞き手に知らせる目的は何なのだろうか。この点が明らかにならなければ、「よね」文と「ね」文との違いが明確に示すことができず、学習者にとってはあまり意味のなさないものになってしまうのではないだろうか。

「駅前のラーメン屋はおいしいね。」という発話と話し手の命題に対する断定度が高いとする「駅前のラーメン屋はおいしいよね。」を使い分ける動機は何なのだろうか。余談だが、『みいつけた!』というNHK教育テレビ番組でオフロスキーという男のキャラクターが登場するコーナーがある。このコーナーはオフロスキーが鼻歌を歌いながらバスタブに入っているシーンから始まるのだが、鼻歌をやめ、カメラの方を向き、「呼んだ?呼んだよね。」という決まり台詞を言い、バスタブから出て、毎回様々な遊びを行うというものだ(写真1参照)。



写真1. NHK 教育テレビ番組『みいつけた!』のオフロスキー

かりにオフロスキーが「呼んだよね。」ではなく、「呼んだね。」と言ってバスタブから出てきたとしたら、この発話に日本語母語話者はなにかしらの違和感を持つに違いない。この違和感を引き起こす「ね」と「よね」の間にどんな意味機能の違いがあるのか分かりやすく学習者に説明することが日本語教育には求められているのではないだろうか。

### 3.3 意味機能が分かっていない

「よね」の意味機能が未だよく分かっていないということも、日本語教科書でこの終助詞が触れられていない理由のひとつであると考えられる。教科書だけでなく、文法表現について詳しく解説されているはずの参考書でも「よね」について触れているものは非常に少なく<sup>(7)</sup>、また解説があるものでもその説明内容は満足いくものではない。『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵他 2000)及び『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵他 2001)では、「よね」が確認を表す場合、「ね」とほぼ同じ意味であるとした上で、両者の違いは「よね」が自分の中で明確でないこと(庵他 2001, 275)や自分の意見や記憶に不確かなところがある(庵他 2000, 168)という意味合いが出てくると説明されている。そして例文の一例として、

「今日は暑いです」という命題と「ね」の組み合わせは正しいとされ、同命題と「よね」の組み合わせには疑問符が付けられている(庵他 2000, 168)。しかしながら、「今日は暑いですね。」という発話が現れるような文脈には現れないだろうが、「今日は暑いですよね。」という文自体は文法的に間違っはならず、この発話のほうが「今日は暑いですね。」よりしっくりくる文脈もあるはずである。また「よね」が「ね」よりも命題に対する確信度の低さを表すとする説明は先に見た『A Dictionary of Basic Japanese Grammar』での説明と明らかに相反するものであり、この点からも「よね」の意味機能の説明が非常に難しいことを示してると言えよう。

意味機能の説明の難しさは「よね」に限ったことではなく、その構成要素である「ね」及び「よ」にも当てはまる。井上(2005, 90)は「ね」「よ」はコミュニケーションにおける重要な言語要素であるのも関わらず文法説明が抽象的なものに終始していると指摘し、学習者にとってより具体的な情報を提供すべきであると述べている。「ね」及び「よ」の意味機能がよく分かっていない現状は「ね」及び「よ」の運用能力の習得を目的とした練習問題を設けている教科書がほぼ皆無だということにも表れていると言えるかもしれない。さらに言えば、「ね」及び「よ」の意味機能が問題となっているのは、日本語教育の分野だけではなく、言語学(主として語用論)の分野にも当てはまり、これら終助詞の意味機能はこの分野でも未だ包括的な説明がなされていない(Kita and Ide 2007, 1246)。終助詞の意味機能を解明する難しさはこれら終助詞に関する研究論文が毎年のように新しく出されていることにも表れている<sup>(8)</sup>。「ね」及び「よ」の複合体だと考えられる「よね」に話を戻せば、研究自体もまだ少なく、今後「ね」と「よ」の研究の発展とともに本格的になされていくのではないかと考える。

### 3.4 慣習の踏襲

スルダノヴィッチ他(2009)が指摘しているように、日本語教科書等で用いられている文法項目の選択は教師や作成者の経験と直観に依拠する部分が多く必ずしも実際の言語使用に関する科学的データを踏まえたものではない。また日本語教科書(特に初級レベル)で扱われている文法項目は少なくともここ四半世紀ほとんど大きな変化は見られず、また教科書間でも大きな差はない。本稿の考察対象である「よね」も現在の初級文法項目の姿に落ち着く過程において採用に漏れそのまま注目もされない状態が現在まで続いているのではないかと考える。ではなぜ「よね」は“不採用”になったのか。日本語学の影響もその一因となっていないだろうか。野田(2005, 5-6)

は日本語教育文法が日本語学から強い影響を受けてきたがために、体系主義という悪影響も受けていると指摘している。その例として、文構造に関わっている「を」や「に」など体系的にまとめやすい格助詞を重視する一方で、文構造及び文の命題に何ら影響を与えない「ね」や「よ」などが軽視され、研究そのものが遅れていると述べている。そして、日本語学への依存から抜け出し、日本語教育に必要な文法を取り入れていく必要性を訴えている。日本語学の影響を強く受け、形作られてきた日本語教育文法で野田が指摘した言語要素「ね」と「よ」の複合体である「よね」も体系的に整理しにくい言語要素、つまり重要ではないものとして扱われ、その慣習がそのまま現在まで続いていると考えてもよいのではないだろうか。しかし、砂川(2011)も指摘しているようにここ数年日本語コーパスに基づく科学的な日本語研究も目覚ましい発展を遂げてきている。その研究成果を基に現在の日本語教育文法と実際の言語使用との距離が縮まっていくと期待できよう。

#### 4. 今後の課題

喫緊の課題として、「よね」の意味機能の解明が挙げられる。特に学習者が知りたいのは「ね」及び「よ」との意味機能の違いであろう。この点で日本語教育に特化した、また学習者に分かりやすい「ね」及び「よ」の意味機能の見直しも必要な時期に来ているのではないだろうか。

また「よね」の導入レベルの検討も急がれる。この作業は既に文法項目になっている「ね」及び「よ」にも当てはまる。OPI(Oral Proficiency Interview)データの分析結果から山内(2009, 37)は「ね」の習得は誤用を含め初級段階からの使用が見られるが、「よ」に関しては中級で習得し、上級になって使用できるようになっているのではないかと述べている。認識及び産出の観点からどのレベルで「よね」「ね」「よ」を導入していくか検討することも今後の大きな課題のひとつになるであろう。

#### 注

- (1) 『J. Bridge』は初級教科書で「よね」が8回用いられているにも関わらず、中級教科書では2回しか用いられていない。これは、初級用が全2巻なのに対して、中級用が全1巻であること、また中級用は読解問題が中心になっていることが起因していると考えられる。
- (2) 例として、『テーマ別上級で学ぶ日本語』、『上級日本語』(東京外国語大学留学生センター編)、『学ぼう！にほんご 上級』等を参照されたい。

- (3) 『日本語超級話者へのかけはし』の姉妹版として中級レベルに相当する『日本語上級話者への道』がある。今回本文で扱った日本語中級教科書は会話例が多用されているものに限定したため同書には触れていないが、同書には68頁と84頁に「よね」が2回使用されている。
- (4) 表内の「ね」の使用回数は文末に現れる「ね」だけを含み、間投助詞として機能する「ね」は含まれていない。また、思考過程等を表す「そうですね」も慣用句化されていると考え、使用回数には含まれていない。
- (5) 大曾(2005)で分析した10組の雑談データ(約6時間)中に現れた「ね」「よ」「よね」の使用頻度数は順に、586回、266回、123回であったと報告されている。
- (6) 「よ」の意味機能が「ね」のスコープ内に含まれないとすれば、「よ」及び「ね」が並列的に命題に作用しているということになるが、この説明では「よね」が逆になった形「ねよ」が現れない説明を他に求める必要性が出てくる。
- (7) 筆者が知る限り、「よね」の意味機能に言及している日本語教育関連の参考書は『A Dictionary of Basic Japanese Grammar』、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』の3書のみである。
- (8) 富樫純一氏の『現代日本語終助詞研究文献目録』参照 ([http://www.ic.daito.ac.jp/~jtogashi/jfp/bibliography\\_on\\_jfp.html](http://www.ic.daito.ac.jp/~jtogashi/jfp/bibliography_on_jfp.html))。なお、「よ」及び「ね」に関する研究の動向については福島他(2006)が詳しく論じている。

## 参考文献

- 井上優(2005)「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』(野田尚史編) pp. 83-102 くろしお出版
- 大曾美恵子(2005)「終助詞『よ』『ね』『よね』再考—雑談コーパスに基づく考察—」『言語教育の新展開 牧野成一教授古稀記念論集』(鎌田修他編) pp. 3-15 ひつじ書房
- 砂川友里子(2011)「日本語教育へのコーパスの活用に向けて」『日本語教育』第150号 pp. 4-18
- スルダノヴィッチ, イレーナ・ベケシュ, アンドレイ・仁科喜久子(2009)「コーパスに基づいた語彙シラバス作成に向けて—推量的副詞と文末モダリティの共起を中心に—」『日本語教育』第142号 pp. 69-79
- 野田恵子(1993)「終助詞『ね』と『よ』の機能—『よね』と重なる場合—」『言語文化と日本語教育』第6号 pp.10-21 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
- 野田尚史(2005)「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」『コミュニケーションのための日本語教育文法』(野田尚史編) pp. 1-20 くろしお出版

- 福島和郎・岩崎庸男・渋谷昌三 (2006) 「終助詞『よ』と『ね』に関する研究の動向」  
『目白大学心理学研究』第2号 pp. 65-74
- 山内博之(2009)『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房
- Kita, Sotaro and Ide, Sachiko (2007) “Nodding, aizuchi, and final particles in Japanese conversation: How conversation reflects the ideology of communication and social relationships.” *Journal of Pragmatics* 39 (7): 1242-1254.
- Levinson, Stephen C. (1979) “Activity type and language.” *Linguistics* 17: 365-399.
- Saigo, Hideki (2011) *The Japanese Sentence-Final Particles in Talk-in-Interaction*, John Benjamins

#### 参考 URL

- 「インタビュー形式による日本語会話データベース」  
<http://www.env.kitakyu-u.ac.jp/corpus/> (2011.04.30 アクセス)

#### 調査した日本語教科書及び日本語教育関連参考書

##### 【初級】

- 『初級日本語（上）』（2010）東京外国語大学留学生日本語教育センター編，凡人社
- 『初級日本語（下）』（2010）東京外国語大学留学生日本語教育センター編，凡人社
- 『初級日本語げんき I』（1999）坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子，The Japan Times
- 『初級日本語げんき II』（1999）坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子・渡嘉敷恭子，  
The Japan Times
- 『新文化初級日本語 I』（2000）文化外国語専門学校編，凡人社
- 『新文化初級日本語 II』（2000）文化外国語専門学校編，凡人社
- 『大地 2 メインテキスト』（2009）山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田  
恵子，スリーエーネットワーク
- 『大地 1 メインテキスト』（2008）山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田  
恵子，スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説英語版』（1998）スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級 I 本冊』（1998）スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級 II 本冊』（1998）スリーエーネットワーク
- 『A Course in Modern Japanese [Revised Edition] Vol.1』（2002）名古屋大学日本語教育研  
究グループ編，名古屋大学出版会
- 『A Course in Modern Japanese [Revised Edition] Vol.2』（2002）名古屋大学日本語教育研  
究グループ編，名古屋大学出版会

- 『J.Bridge for Beginners Vol.1』(2007)小山悟, 凡人社
- 『J.Bridge for Beginners Vol.2』(2008)小山悟, 凡人社
- 『Japanese for Busy People I [Revised 3rd Edition] Romanized Version』(2006) 国際日本語普及協会, 講談社インターナショナル
- 『Japanese for Busy People II [Revised 3rd Edition] Romanized Version』(2007) 国際日本語普及協会, 講談社インターナショナル
- 『Japanese for Busy People III [Revised 3rd Edition] Romanized Version』(2007) 国際日本語普及協会, 講談社インターナショナル
- 『Situational Functional Japanese Vol.I: Drills [second edition]』(1991)筑波ランゲージグループ, 凡人社
- 『Situational Functional Japanese Vol.I: Notes [second edition]』(1991)筑波ランゲージグループ, 凡人社
- 『Situational Functional Japanese Vol.II: Drills [second edition]』(1992)筑波ランゲージグループ, 凡人社
- 『Situational Functional Japanese Vol.II: Notes [second edition]』(1992)筑波ランゲージグループ, 凡人社
- 『Situational Functional Japanese Vol.III: Drills [second edition]』(1992)筑波ランゲージグループ, 凡人社
- 『Situational Functional Japanese Vol.III: Notes [second edition]』(1992)筑波ランゲージグループ, 凡人社

### 【中級】

- 『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(2005)中居順子・近藤扶美・鈴木真理子・小野恵久子・荒巻朋子・森井哲也, スリーエーネットワーク
- 『会話のにはほんご[改訂新版]』(2007)佐々木瑞枝・門倉正美, The Japan Times
- 『新日本語の中級』(2000)財団法人海外技術者研修協会編, スリーエーネットワーク
- 『上級へのとびら』(2009)近藤純子・江森祥子・花井善朗・石川智, くろしお出版
- 『なめらか日本語会話[新装版]』(2005)富阪容子, アルク
- 『ニューアプローチ中級日本語[基礎編]改訂版』(2003)小柳昇, 語文研究社
- 『文化中級日本語 I[第2版]』(2004)文化外国語専門学校, 凡人社
- 『文化中級日本語 II』(1997)文化外国語専門学校, 凡人社
- 『わかって使える日本語』(2004)名古屋 YWCA 教材作成グループ, スリーエーネットワーク
- 『Intermediate Japanese[Revised Version]』(2008)三浦昭・マグロイン花岡直美, The Japan

Times

『J.Bridge to Intermediate Japanese』(2002)小山悟, 凡人社

【中上級以上】

『上級日本語』(1998)東京外国語大学留学生日本語教育センター編, 凡人社

『テーマ別上級で学ぶ日本語[改訂版]』(2010)阿部祐子・亀田美保・桑原直子・田口典子・永田龍典・古家淳・松田浩志, 研究社

『日本語上級話者への道』(2005)荻原稚佳子・増田真砂子・齊藤真理子・伊藤とく美, スリーエーネットワーク

『日本語超級話者への道』(2007)荻原稚佳子・齊藤真理子・伊藤とく美, スリーエーネットワーク

『日本語を話そう[第3版]』(2001)日鉄ヒューマンデベロプメント・日本外国語専門学校, The Japan Times

『ニューアプローチ中上級日本語[完成編]』(2002)小柳昇, 語文研究社

『学ぼう! にほんご 上級』(2010)日本語教育教材開発委員会, 専門教育出版学校, The Japan Times

『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(2000)山内博之, アルク

【参考書】

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(2000)庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘, スリーエーネットワーク

『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(2001)庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘, スリーエーネットワーク

『A Dictionary of Basic Japanese Grammar』(1986)牧野成一・筒井通雄, The Japan Times